

研究開発成果 実装支援プログラム
平成24年度 報告書

実装活動の名称 「医学的機能評価に基づく高齢者の排尿自立支援」

採択年度 平成22年度
実装機関名 東京大学大学院
実装責任者 本間之夫

1. 概要

尿失禁は高齢者の抱える排尿障害の一つである。尿失禁への対処は多くの場合、排尿補助製品（オムツ、パッド等）に依存していると考えられる。尿失禁の原因を追究することなく安易に排尿補助製品に依存すれば、介護負担の増加や高齢者の「生活の質＝QOL」の低下を招くだけでなく、本来可能なはずの自立排尿を諦めさせ、高齢者の生活の質を低下させることに繋がると考えられる。本研究では既に研究成果が確認されている「排尿機能評価に基づいた高齢者の排尿管理」を実装し、高齢者の排尿自立・QOL向上と介護負担の軽減を図ることを目的として、平成22年10月から活動を開始している。平成24年度では高齢者の認知機能、身体機能と尿失禁の有病率に関する横断的研究を行い、国内外の学会にて報告を行った。それに平行して、平成23年11月からは高齢者一人一人の排尿機能に基づいて排尿誘導を行い、排尿補助製品への依存度低減、生活の質向上に向けた活動を行った。

2. 実装活動の具体的内容

(1) 全体計画

項目	平成22年度 (6ヶ月)	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (6ヶ月)
排尿補助製品使用実態調査	←→			
高齢者排尿機能評価		←→		
QOL評価	←→			
合理的な排尿機能評価法の開発・普及	←→			
まとめ				←→

(2) H24年度研究計画と進捗状況

項目	H23年度研究計画	実際の進捗状況
1	平成24年4月～10月末 排尿補助製品利用中の高齢者に対する介入調査（2次調査）	平成23年11月17日～ 2次調査開始 平成24年4月28日 湖山医療福祉グループにおける 2次調査終了 平成24年12月20日 老人保健施設めぐみにおける 2次調査終了 2次調査対象者は105名であった。 介入中に転院、入院、死亡などによ

		<p>り21名の調査を中断せざるを得なかった。</p> <p>平成25年2月15日現在 84人分のデータを解析中。</p>
2	学会発表	<p>平成24年6月1日～6月2日 第25回 日本老年泌尿器科学会 に出席。1次調査の結果について 「高齢者排尿自立支援(第一報)」 と題する口演を行った結果、学会 賞に採択された。</p> <p>平成24年10月18日～10月20日 国際禁制学会2013 (@北京) に 出席。Podium Poster Sessionに て1次調査の結果を報告。 豪州University of Wollongong のVictoria Traynor准教授と意 見交換。現在も交流を継続してい る。</p>
3	介護者QOL調査の実施	<p>平成24年12月7日 老人保健施設めぐみの介護者 QOL調査完了。</p> <p>平成24年12月25日 湖山医療福祉グループへの介護 者QOL調査実施、集計の催促を行 った。</p>
3	合理的な排尿機能評価法の開発・普及	<p>平成23年8月2日～現在 平成21年度 日本老年泌尿器科 学会研究助成 「機能評価に基づ いた高齢者の排尿管理に関する 研究」(研究代表者:岩坪暎二、 研究分担者:本間之夫ほか) に関 して、サブ解析を行い英文誌投稿 用論文作成中。</p> <p>平成24年4月～現在 排尿自立支援の全国モデル(高 齢者排泄ケアセンター)作りを 目的とした国立長寿医療センタ ー「高齢者排泄ケアセンターの 設立を目指した地域包括モデル と人材育成システムの開発 に関する研究」(主任研究者 吉田正貴)に分担研究者(本間</p>

		<p>之夫)、研究協力者(鈴木基文)として参画。平成24年7月19日第1回班会議、平成25年1月31日第2回班会議に出席し、意見交換を行った(会場:名古屋市名古屋ルーセントタワー)。実績としては、高齢者排尿ケアに関わる7団体に対してアンケート調査を実施した。本実装活動と内容的に重複するため、他の研究者との意見交換を継続することは極めて意義が高いと考えている。</p> <p>平成24年11月30日 平成21年度 日本老年泌尿器科学会研究助成「機能評価に基づいた高齢者の排尿管理に関する研究」(研究代表者:岩坪暎二、研究分担者:本間之夫ほか)について、統計解析ならびに報告書作成に協力し、同報告が日本老年泌尿器科学会誌25巻に掲載された。</p> <p>平成24年12月20日～現在 2次調査の解析を進めつつ、合理的な排尿機能評価法の開発を行っている。</p>
--	--	--

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

該当なし

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2012.5.18	湖山グループ懇談会（6）	特別養護老人ホーム カメリア	参加者：9名 1次調査の結果報告ならびに2次調査の進捗状況の報告		
2012.6.1-2	第25回 日本老年泌尿器科学会	徳島市	参加者：約800人 高齢者排尿支援に関する演題発表者との意見交換。 （120演題）		
2012.11.19-20	2012年度 こやまケア全国研究発表大会	クロスウェーブ府中	参加人数 350人 共同研究者である湖山泰成が主宰する医療福祉グループ内の研究発表会にて、「医学的機能評価に基づく高齢者の排尿自立支援」と題する講演を行った。	湖山医療福祉グループ	

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

- ①新聞報道
- ②TV放映
- ③ラジオ報道
- ④雑誌掲載

- ① 平成24年4月 ライフサイエンス社 Progress in Medicine
特集 過活動膀胱を考える 2. 過活動膀胱の疫学およびQOLへの影響.
(鈴木基文)
- ② 平成24年5月 メディカルレビュー社 診療ガイドラインUP-TO-DATE 2012-2013
XI-3 前立腺肥大症(BPH) 前立腺肥大症ガイドライン(2011).
(鈴木基文、井川靖彦、本間之夫)
- ③ 平成24年8月 メディカルレビュー社 LUTSプライマリケア
「前立腺肥大症診療ガイドラインの診断」.
(鈴木基文)
- ④ 平成24年9月 全国社会福祉協議会 ふれあいケア
特集 利用者主体の排泄ケア 排泄のメカニズムと排泄障害.

(鈴木基文、本間之夫)

- ⑤ 平成24年12月 新興医学出版社 Modern Physician
前立腺肥大症の治療最前線—薬物療法を中心に— ①前立腺肥大症診
療ガイドラインの位置づけ
(鈴木基文)

(4) 論文発表 (国内誌 1 件、国際誌 0 件)

鈴木基文、藤村哲也、福原浩、他：高齢者排尿自立支援（第一報）．日本老年
泌尿器科学会誌．25巻：p52，2012.

(5) WEBサイトによる情報公開

該当なし

(6) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

- ①招待講演 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)
第7回 在宅医療に関する課題研究会
平成24年10月29日 (月) 18：00～21：00
東京大学伊藤国際学術研究センター 特別会議室
「高齢者の排尿障害」
座長 東京大学政策ビジョン研究センター 秋山昌範
発表者 東京大学大学院医学系研究科泌尿器外科学 本間之夫
第59回 Tokyo Expert Urology Seminar 東京
平成25年2月25日 (月) 19：00～19：30
本館3階「千鳥」/ホテルメトロポリタン エドモント
「高齢化社会における尿失禁問題について」
座長 東京大学大学院医学系研究科泌尿器外科学 本間之夫
発表者 東京大学大学院医学系研究科泌尿器外科学 鈴木基文
- ②口頭講演 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)
第25回 日本老年泌尿器科学会 徳島
平成24年6月1日 (月) 15：40～16：40
第3会場 (小ホール) /あわぎんホール
「高齢者排尿自立支援（第一報）」
座長 社会医療法人財団大和会東大和病因泌尿器科 大川麻子
東京大学大学院医学系研究科・医学部臨床看護学 真田弘美
発表者 東京大学大学院医学系研究科泌尿器外科学 鈴木基文
- ③ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 1 件)
International Continence Society 2013 Beijing
Session 22 (Podium Poster) - Gerontology
19th October, 2012 (Fri.) 14：05～14：10
China National Convention Center
「Risk factors of diaper/pad-use for urinary incontinence in elderly nursing

home residents in Japan」
Chair University of Pittsburgh, Stasa D Tadic
University of Alberta, Adrian Wagg
Speaker University of Tokyo, Motofumi Suzuki

(7) 特許出願

- ①国内出願 (0 件)
- ②海外出願 (0 件)

(8) その他特記事項

該当なし